

第18回技術報告会開催にあたり

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2013-03-27 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 碓氷, 泰市 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00007122

第 18 回技術報告会開催にあたり

技術部長 碓氷泰市

平成 24 年度の技術報告会開催にあたり一言ご挨拶をさせていただきます。

学長の挨拶にもありましたように、本年 4 月静岡大学技術部が設立されました。私が理事になって 3 年目ですのでこの 2 年間は技術部一元化に皆さんと一緒に取り組んできて、4 月からスタートしました。浜松には 5 部門、静岡には 2 部門そして河合統括の元で技術長 3 名と総務委員会等で全体の運営を行っています。慌ただしい中 10 ヶ月すぎまして一元化によるメリット、デメリットが顕在化してきたと思います。いい面を伸ばし、ギクシャクしている所は反省してこの一年を総括し次の発展に繋げていただきたいと思います。その中での技術報告会と言うことで、新しく一元化に関するテーマを含めいろんな話があります。他大学からも 6 名の方が出席されており、有る意味ひとつの区切りとなるような技術報告会だと思います。

また、先ほどの伊東学長の話にもありました、時代と共に技術職員に求められること、技術支援のあり方と業務も変わってきています。特に機器分析の高度化、それに対する管理、運営、情報管理、この情報についても 20 年前私が赴任した頃まったく無縁でした。ここ 10 年、情報と言うのは管理なしに大学がスムーズに運営できません。そして物作り、この物作りもずいぶん変わってきました。今のニーズ、昔のニーズ、いろんな意味で時代とともに業務の在り方も変わってきます、そういう意味で今日の技術報告会と言うのは大変意義があると考えており、より実のある会にしていきたいと思います。そして学長の話にもありましたように「三位一体」と言う言葉。わたしは教職共同、お互いの総合的な関係があるからこそ大学が運営できると信じております。

第 18 回技術報告会によせて

統括技術長 河合秀司

静岡大学の技術部が一元化して 8 ヶ月になりますが、あつと言う間にすぎてしまいましたけれども、まだまだ問題が山積みされています。

技術職員の声はもちろん、教員、事務職員の声を聞いて、それを糧にしてやっていきたいと思います。その一つが技術報告会だと思いますので皆さんの目標として頑張ってくださいと思います。

最後に、伊東学長、碓氷技術部長、ご挨拶いただきまして有り難うございました。